

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成18年5月25日(2006.5.25)

【公表番号】特表2002-520646(P2002-520646A)

【公表日】平成14年7月9日(2002.7.9)

【出願番号】特願2000-559377(P2000-559377)

【国際特許分類】

G 0 2 F 1/17 (2006.01)

G 0 2 B 1/08 (2006.01)

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

【F I】

G 0 2 F 1/17

G 0 2 B 1/08

G 0 2 B 5/30

【手続補正書】

【提出日】平成18年3月17日(2006.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 以下を反応させることによって得られる複合体を含むポリハライド光偏光性材料：(a)元素状ヨウ素；(b)ヒドロハライド酸又はハロゲン化アンモニウム、ハロゲン化アルカリ金属又はハロゲン化アルカリ土類金属；(c)ピラジン-2,5-ジカルボン酸である第一の化合物；及び(d)ピラジン-2,5-ジカルボン酸のモノ-アルキルエステル又はモノ-アミドである第二の化合物。

【請求項2】 第一の化合物がジカルボン酸の二水化物であり、かつ第二の化合物がジカルボン酸の一水化物である、請求項1の光偏光性材料。

【請求項3】 モノ-アルキルエステルがモノC₁~C₂₀のアルキルエステルであり、かつモノアミドの窒素が一又は複数のアルキル基、好ましくはC₁~C₁₀のアルキル基で任意に置換されていてもよい、請求項2の光偏光性材料。

【請求項4】 第二の化合物の量が第一の化合物の約0.01モル%~約10モル%の範囲にあり、好ましくは第一の化合物の約0.1モル%~約5モル%の範囲にあり、最も好ましくは第一の化合物の約0.2モル%~約3モル%の範囲にある、請求項1の光偏光性材料。

【請求項5】 液状分散媒体中に光偏光性粒子の分散物を含むセルを含むライトバルブあって、光偏光性粒子が請求項1ないし4のいずれか一の光偏光性材料であるライトバルブ。

【請求項6】 電気抵抗性の液状分散媒体、該媒体に分散した請求項1ないし4のいずれか一の光偏光性材料の複数の小さな非等軸形の粒子及び分散物中で粒子を分散させるための該媒体に溶解した少なくとも一つの分散材料を含む、ライトバルブ用の液状分散物。

【請求項7】 請求項1ないし4のいずれか一の光偏光性材料の複数の粒子を含み、キャリアに分散され、粒子の偏光軸が配向されかつキャリアによって実質的に平行に動かないように保持されている、光偏光体。

【請求項8】 以下を反応させることによって複合体を製造することを含むポリハライド光偏光性材料の製造方法：(a)元素状ヨウ素；(b)ヒドロハライド酸又はハロゲン化ア

ンモニウム、ハロゲン化アルカリ金属又はハロゲン化アルカリ土類金属；(c) ピラジン - 2, 5 - ジカルボン酸である第一の化合物；及び(d) ピラジン - 2, 5 - ジカルボン酸のモノ - アルキルエステル又はモノ - アミドである第二の化合物。

【請求項 9】 第一の化合物がジカルボン酸の二水化物であり、第二の化合物がジカルボン酸の一水化物である、請求項 8 の方法。

【請求項 10】 モノ - アルキルエステルがモノ $C_1 \sim C_{20}$ のアルキルエステルであり、かつモノアミドの窒素が一又は複数のアルキル基、好ましくは $C_1 \sim C_{10}$ のアルキル基で任意に置換されていてもよい、請求項 8 の方法。

【請求項 11】 第二の化合物の量が第一の化合物の約 0.01 モル% ~ 約 10 モル% の範囲にあり、好ましくは第一の化合物の約 0.1 モル% ~ 約 5 モル% の範囲にあり、最も好ましくは第一の化合物の約 0.2 モル% ~ 約 3 モル% の範囲にある、請求項 8 の方法。